

日交研シリーズ A-698
平成 28 年度自主研究プロジェクト
夜の活動を支える都市と交通のあり方に関する研究
刊行：2018 年 3 月

夜の活動を支える都市と交通のあり方に関する研究
City and Transportation for Safe, Secure and Comfortable Nighttime Activities

主査 大森宣暁 (宇都宮大学教授)
Nobuaki OHMORI

要 旨

24 時間化した現代の都市においては、人々の生活の質を向上させる視点から、「住む」、「働く」、「憩う」、「往来する」という都市社会の 4 要素を、時間軸を考慮してバランスよく配置することが求められるものと考えられる。しかし、従来の都市計画は、昼間の都市活動を主たる計画対象とし、夜間の都市活動が幾分疎かにされてきた感が否めず、人々が、安全・安心・快適に、夜間の活動に参加できる環境が整備されているとは言い難い。申請者らは、これまで土木計画学研究発表会において、夜の都市計画に関するセッションを企画し、夜の活動主体、夜の活動機会提供主体、夜の活動計画・管理・運営主体等、多様な関係者を交えて、人々の夜の生活活動における現状と課題等について議論を行い、都市・交通計画の分野における学術的な研究の必要性を再認識した。以上の背景から本研究は、人口減少・少子高齢社会において、全ての人々が安全・安心・快適に、夜間の自宅内外の生活活動に参加できる環境整備に向けて、我が国の社会的文化的特性を反映した都市と交通のあり方について、幅広い視点から検討を行うことを目的とする。

研究会では、ジャーナル“Urban Studies”の特集“Geographies of the urban night”の論文レビュー、ソーシャルネットワークと余暇活動との関係性、首都圏在住 20~40 代有職者の余暇活動の実態と意識、“night mayor”、都市としての闇市の位置づけ、戦後日本の盛り場と性風俗の変遷、学生の余暇活動の実態と意識、出張者の自由時間における消費行動と意識等について議論を行った。また、第 53 回土木計画学研究発表会においてスペシャルセッション「復活！夜の都市計画」を企画し、主に夜間の人々の余暇活動に着目して、横丁の形成過程と特徴等についての議論を行った。出張者の自由時間における消費行動と意識等に関しては、北関東主要 3 都市への出張者を対象として、自由時間における消費行動の実態と意識に関するアンケート調査を実施し、日帰りと宿泊、活動内容、活動終了時刻等が消費金額に与える影響を明らかにした。学生の余暇活動の実態と意識に関しては、東京都心、東京周辺、地方都市に立地する複数の大学の学生を対象として、娯楽・飲酒活動の実態と意識に関するアンケート調査を実施し、頻度、場所、消費金額等の都市別の違い、個人属性と娯楽・飲酒活動が満足度および幸福度に与える影響を明らかにした。

キーワード: 夜、活動、都市、交通

Keywords: Nighttime, Activity, City, Transportation